

知識系ゴースト作成における資料運用 -歴史・人文系を例として-

講演：畝傍

(『鉄の夢』、『侵されざる黒』等作者)

講演にあたりましてのお願い及び注意事項

- 録画及び写真撮影は一切お断り致します。撮影を行われた方はご退席いただくこともございます。御承知下さい。スライドについてはうかべんWikiに掲載されておりますので、撮影される必要は特にはないかと思えます。御必要でしたら後程DLして下さい。
- 録音につきましては公式サイトの方にアップさせていただきますので不要かと思えます。
- 講師畝傍は歴史学を大学等で専攻したわけではありませんので、あくまで我流ということをご承知ください。
- 史料＝資料です。歴史学では史料という表記をするので、そちらに準拠しました。

はじめに

- 雑学系ゴーストを作るにあたり最初にどのようなジャンルを選ぶか
- 自分が興味のあるもの、既に熟知しているジャンルがネタ出しする上でも、掘り下げる上でも最良。
- 好きこそものの上手なれ

史料を集めるに当たって

- まずは入門サイトから
インターネットを活用すること
→ もっとも参考になるのは「参考文献」!
- 入門書も複数読むのが理想。
入門書・ムックの類も複数読むのが大事です。
最初は質より量
- 読んだあとはやっぱり「参考文献」をチェック

参考文献のチェック？

- より詳細な史料にたぐる上で重要なとっかかり
→複数の本に史料としてあがっているものは
重要である可能性が高いです
- 史料のクロスチェックの上でも有効です

慣熟してきたら

- 参考文献の参考文献となった史料を読む
→量も大事ですが、執筆者の立場も考慮
例：太平洋戦争の本を読む場合には日米両側の史料を使うのが望ましいです。
- 人の書く文章には主観が入るものですし
所属団体により手に入る史料も違ってきます
→クロスチェック
- 書評を活用するのも手です

クロスチェックとは

- 複数の史料を用いて照らし合わせること
- 誤りの発見や、特定のバイアス排除に効果的
- (同じ文献を元に書いている本二冊を使うと全く同じミスに気付かない恐れが…)
- 古い史料には要注意(何度痛い目を見たか…)

史料の入手の仕方

- 最初は図書館で十分、メモを活用しましょう
(高価な史料も置いてます。侮るべからず)
- 本当に必要・欲しい資料があれば躊躇しない
出版業界の絶版はとても早く、あっという間に
手に入らなくなることも珍しくありません
- 古書店を活用する→珍しい本も手に入るかも

史料の使い方：副読本を使う

- 地図やイラストの載っているであろう入門書はこの時にも威力を発揮します
横に開いて置き、見るだけでも効果が…あるかも？
- 他、系統立てて読むなら大枠→細かい視点
(例：戦史書→個人の書いた戦記)

史料の信憑性の判断

- 権威ある書籍を選ぶか、意欲的で刺激的なものを選ぶか
→ 自己の知識がものを言います。
 センセーショナルなものはうっかり飛びつくと痛い目にあうことも…
- とはいえ、読まない手はありません
→ 自己の思考の取っ掛かりにもなります
 (ネタ裏付けへの採用は慎重に)

結びにかえて

- 一作者の主観・我流によるもので、「こうでなければならぬ」という枠組みを強要するものではありません。
- 最良の自分にあったやり方は自分自身で見つけて下さい
- 趣をかえて稀覯本_(きこうぼん)蒐集に走るのも面白いかも

参考文献等

参考文献

- ・『史料学入門』東京大学教養学部歴史部学会
- ・『戦略論体系 クラウゼヴィッツ』戦略研究学会
- ・『レポート・小論文・卒論の書き方』保坂弘司